



みんなの安全を守る！
立ち回り版

全国に設置した地震計や津波観測施設などの観測データから、24時間体制で地震や津波を監視。(→地震火山オペレーションルーム p16)



空港の観測室で、空港気象観測システムのデータをチェック。

自然災害の危険から命を守る！



大規模な災害が発生した(または発生が予想された)ときには、JETT(気象庁防災対応支援チーム)が活躍！(→p14)



海洋気象観測船に乗り、地球環境に関する観測をおこなう。自記水温水深計(XBT)という特殊な装置を使って、水深1000m近くまでの水温を連続的に計測。(→海洋気象観測船 p22)



海洋気象観測船「啓風丸」

「空・海・陸」を24時間体制で監視！



写真提供：国立極地研究所

南極の昭和基地で気象観測をおこなう気象庁隊員。南極ではなにがあっても助けをよんだり、ものを補給したりすることができない。観測機器の保守・点検、障害の対応も、すべて自分たちでおこなう。(→p24)



はじめに

みなさんのおじいさん・おばあさんの子ども時代といえ、**今**の将来のなりたい職業として、エンジニアや科学者などといった理系の職業をあげる人が多くいました。その背景には、当時の日本が科学技術の進歩にささえられ、経済・産業を急速に発展させていたことがあげられます。ところがその後、日本経済は低成長の時代となり、子どもたちの理系ばなれも加速していきました。OECDが4年に一度おこなっている世界共通のテストでは、かつて1位をとっていた数学で、日本はどんどん順位を下げ、子どもたちの理系科目の学力をあげなければ、日本の経済・産業が心配だといわれるようになりました。

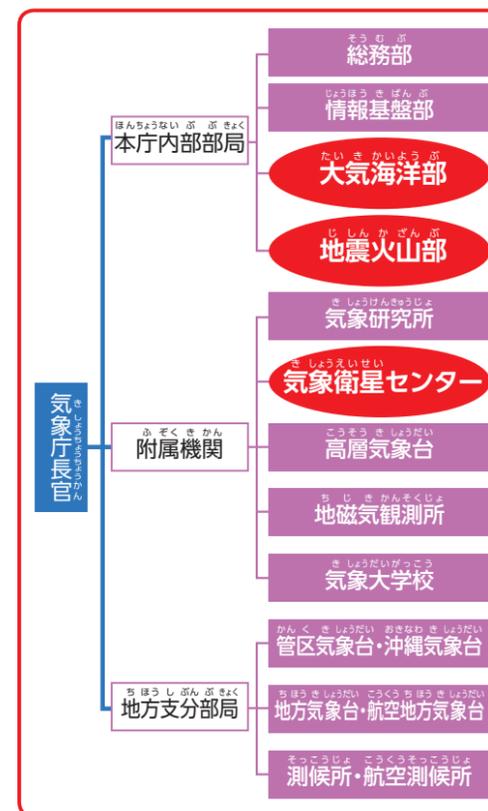
近年、理系の仕事の人気がふたたび高まっているといえます。その背景には、日本人のノーベル賞受賞者があいついだことや、大学で学んだ専門知識や技術などをしごとに生かしたいと考える人がふえたことなどがあります。また、理系の職場や進路をめざす女性が昔よりふえはじめ、「理系女子」を省略した「リケジョ」という言葉も使われるようになりました。

さて、このシリーズは、かつての子どもたちのあこがれで、近年ふたたび人気が高まっている理系の職場で活躍する人たちを見て、みなさんの将来のしごとについて考えるきっかけにしてほしいと企画したシリーズです。巻ごとに理系のしごとのなかからひとつの組織を取りあげ、そのしごと内容をくわしく見ていき、さらに巻末では、さまざまな理系のしごとをたくさん紹介したいと思います。

今回、この本で紹介するのは、「**気象庁**」です。気象庁は、気象や地震などを観測する、国の機関です。中心機関として東京に本庁があり、地方の分局として気象台が60か所ほどあります。気象の観測や予報、地震や火山活動の監視、海洋の気象データの収集・分析など、しごとの内容もさまざま。天気予報を毎日発表するだけではないのです。

このシリーズで紹介される人たちのがんばりを見て、理系のしごとに改めて魅力を感じる人もいられるでしょうし、新たに将来のしごとの選択肢として興味をもつ人もいるはず。そうした思いとともに、理系の科目やしごとを敬遠することなく、みなさんにどんどん興味をもってもらうことを願っています。

子どもジャーナリスト 稲葉茂勝
Journalist for Children ことくらぶ



●もくじ

- 巻頭特集1 これが気象庁の現場だ! 1
- 巻頭特集2 気候研究でノーベル賞! 4
- 巻頭特集3 進化する天気予報 5
- はじめに 6
- しごとの現場を見てみよう!
- 1 気象の観測・監視 8
 - 気象庁職員ファイル① 西園宏人さん 11
- 2 気象の予報 12
 - 気象庁職員ファイル② 近藤智子さん 15

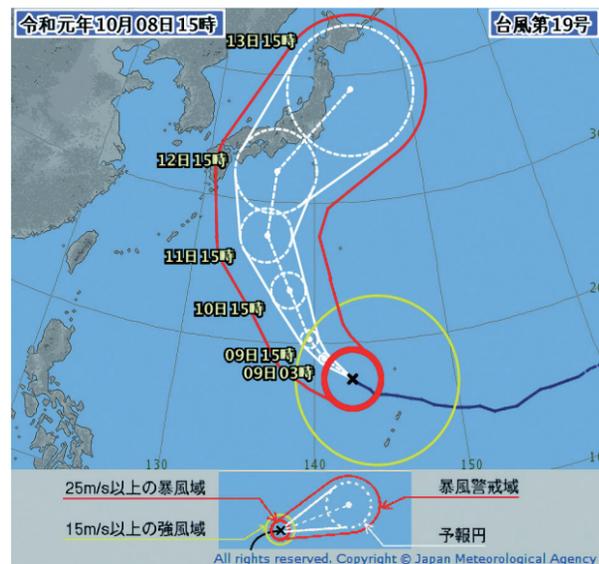
- 3 地震・火山の監視・情報発表 16
 - 気象庁職員ファイル③ 手操佳子さん 20
 - 気象庁職員ファイル④ 河村優太さん 21
- 4 地球環境・海洋の監視・予測 22
 - 気象庁職員ファイル⑤ 藤井拓也さん 27

- 気象庁の職員になるには? 28
- またまだあるよ 気象学系のしごと 29
- さくいん 31

立ち読み版

台風情報の予測と発表

台風が発生すると、気象庁では台風情報を発表します。台風情報では、強さ、位置、進行方向、はやさ、気圧、風速など、3時間ごとの台風の状況が発表されます。また、24時間先までの進路予報もあわせて発表されますが、72時間後も引きつづいて台風であると予想される台風については、1日4回、5日先までの進路予報と強さが発表されます。



警報や注意報の発表

台風や豪雨などで大雨がふると、水害や土砂災害などが起きる可能性が高まります。気象庁では、こうした災害の防止ならびに軽減のため、警報や注意報、気象情報などの防災気象情報を発表し、注意と警戒をよびかけます。これらは、都道府県や市町村などに伝えられ、防災活動などに利用されるとともに、市町村や報道機関を通して、わたしたちにも伝えられます。

● いろいろな防災気象情報

竜巻注意情報
竜巻などはげしい突風に対する気象情報を、段階をへて発表し、注意をよびかける。

強風に関する警報や注意報
強風による災害の防止や軽減のため、警報や注意報を発表し、注意と警戒をよびかける。強風に関する警報には暴風警報・暴風雪警報・波浪警報・高潮警報が、強風に関する注意報には強風注意報・風雪注意報がある。

雪に関する警報や注意報
雪による災害は、雪がふっているときだけではなく、雪がふったあとにも起きるため、大雪警報や大雪注意報、暴風雪警報や風雪注意報、着雪注意報のほかにも、なだれ注意報や融雪注意報を発表し、注意と警戒をよびかける。

気象庁職員ファイル②

こんどうともこ
近藤智子さん

(気象庁/大気海洋部/予報課/気象監視・警報センター)

しごと歴：7年
大学で専攻した分野：地球科学
子どものときの趣味：ピアノ

このしごとにつこうと思ったきっかけは？
子どものころから雲や雷を見るのが好きで、中学校の先生に「気象庁という機関があるよ」と教えてもらったのがきっかけです。また、台風や地震などで人の命がうばわれることが悲しくて、自然災害から人びとを守りたいと思い、気象庁をめざすことにしました。

実際に働いてみてどうですか？
子どものころから天気予報を見ていましたが、自分がつくるとなると想像以上にたいへんです。天気予報は、人びとの暮らしにかかせないものなので、常に勉強することを心がけて、みなさんのお役に立てるようがんばりたいと思います。

しごとをする上で、大切にしていることは？
自分がつくった天気予報や警報にまちがいがなければ、しっかりと確認して、みなさんにお知らせするようにしています。わたしが発表する情報は、発信ボタンをおすとすぐにみなさんに届きます。そのため、「指差し・声出し確認」をおこない、見落とさないようにしています。

やりがいを感じるのは、どんなときですか？
天気が悪くなり、災害が起こるおそれが出てくると、さまざまな防災気象情報を発表します。この情報が避難行動をとるもととなって人びとの役に立っていると思うと、とてもやりがいを感じます。

日頃、どのようにしごとをしていますか？
しごとは日勤（午前8時30分～午後5時）と夜勤（午後4時～翌日午前9時30分）があります。日勤は、観測データやスーパーコンピュータの予想資料をもとに、地方気象台の予報官と天気や気象状況を予想。11時と17時の天気予報を発表します。夜勤は関東甲信地方をまとめている予報官と相談をしながら天気を決めて、朝5時に天気予報を発表します。

天気や気象状況を予測しています！

子どものころの夢は？
小学校低学年のころは、花屋さんやパン屋さんで働くのが夢でした。高学年になると、人を助けたいと思う気持ちが強くなり、医師や看護師になりたいと思っていましたが、中学生のころには気象庁に入りたいと思うようになりました。



「あなたの町の予報官」、全国津々浦々

「あなたの町の予報官」とは、地方気象台の職員が地域ごとに担当チームをつくり、地域防災を支援しようという気象庁の取り組み。あなたの町の予報官と名づけられた職員は、日頃から市町村などと「顔の見える関係」をつくるとともに、気象防災ワークショップをおこなうなど、地域と密着した支援の強化をはかる。また、緊急時にはJETT（気象庁防災対応支援チーム）を派遣し、地域防災を支援する取り組みも進めている。



防災気象情報を解説する気象庁の職員（2017年7月九州北部豪雨）。
資料：国土交通省